

文化情報学部

Faculty of Culture and
Information Science

同志社大学

「文」「理」の枠を超え、
新たな知と出会う





経済



科学

「ビッグデータ」が ビジネスの未来を拓く!?

オンラインショップで商品を購入する際に、「オススメ商品」が表示された経験はありませんか？実は、その商品はあなたの購買履歴やアクセス情報などのデータをもとに導き出されているのです。近年、こうした生活者に関するインターネット上の膨大なデータ＝「ビッグデータ」が注目を集めています。大量のデータから消費者の行動予測が可能になるため、ビジネスへの活用が期待されていますが、利用目的や運用方法を明確に定めておかなければ有効活用はできません。誰もが公平にビッグデータを活用できる技術や手法を開発することで、企業活動、ひいては私たちの毎日の生活に役立てることができるのです。

文化を科学の目で見ると。 それは、次の時代をつくる学び

文化情報学部では、文化、すなわち人間の営みに対して科学的なアプローチで迫り、これまでは見えてこなかった様々な事実を明らかにしていきます。

そう、ここにあるのは既存の学問領域を超えたユニークで新しい学びの形。

それは同時に、次の社会を、次の時代を拓く学びの形なのです。



カルチャー



科学

文化の流行は予測できる!?

パンク・ロックやヒッピーファッション、コンテンポラリーアートなどに代表されるように、1970年代後半から、かつては一つの国の若者の間で流行っていた音楽やファッションが世界的な規模で流行し始めました。これらの文化はどのように世界中に広がり、他の文化圏で受容されるに至ったのでしょうか？その疑問は、統計資料を綿密に調査し、写真や映像を細かく観察することによって明らかにすることができます。この研究結果をうまく利用すれば、これから先どのような文化が日本から世界へ広がり、流行するのも予測できるようになるでしょう。

コミュニケーション



科学

喋らなくても相手の考えが分かる!?

クラブ活動やグループ勉強など、複数の人間で協力し合って作業をする際に苦労した経験は誰しも持っているはずです。こうした場面でうまく進めるための秘訣は、いったい何でしょうか？ たいていの場合は会話の内容に捉われがちですが、会話の間やタイミングさらに視線やジェスチャーなど、言葉以外の部分に着目してみましょう。こうした行動パターンを客観的に計測してみると、相手の考え方が分かるだけでなく、個々人のアイデアが一つに融合されていく過程を明らかにすることができます。この「身体コミュニケーション」が共同作業を成功へと導くカギとなるのです。



倫理



科学

動物実験は近い未来になくなる!?

私たちが日々の生活の中で、多くの化学物質の恩恵を受けていることは言うまでもありません。多種多様な化学物質を安全に用いるため、これまではウサギやネズミなどの動物を用いた安全性評価が行われてきました。しかし現在は動物愛護の観点から、こうした実験動物を用いない新しい試験法の開発が望まれています。もちろん今までの試験法と同等、あるいはそれ以上の性能が必要とされますが、そうした要件を満たすのが、客観的かつ定量的に結果を示すことができる「データ」です。つまりデータサイエンスの手法を用いることにより、動物実験をなくすとともに、人々の健康や安全を維持することが可能になるのです。



なぜ、文化を科学するのか？

「融合」が拓く、 新たな学問のステージ

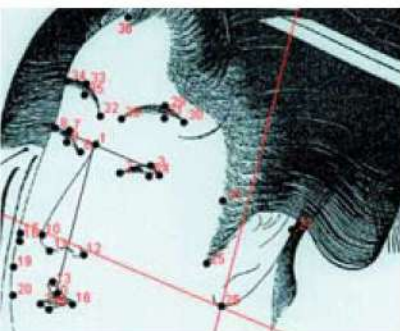
昨今、世間で注目を浴びている研究は、異なる分野のコラボレーションによって生まれたものが少なくありません。これからの時代、新しい発見は既存の学問の枠組みを超えたところに、異なる分野の融合の中にこそあると言っても過言ではないでしょう。

文化情報学部は、これまで自然科学の分析対象ではなかった「文化」を「データサイエンス」の手法で探究する文理融合の学部。芸術や歴史、社会現象などをデータに基づいて分析することで、従来の方法では見えてこなかった事実にとりつこうとする試みです。未知の領域に飛び込み、新たな発見の場に立ち会う体験を通して、「学問をする」ことの面白さを実感してほしいと思います。

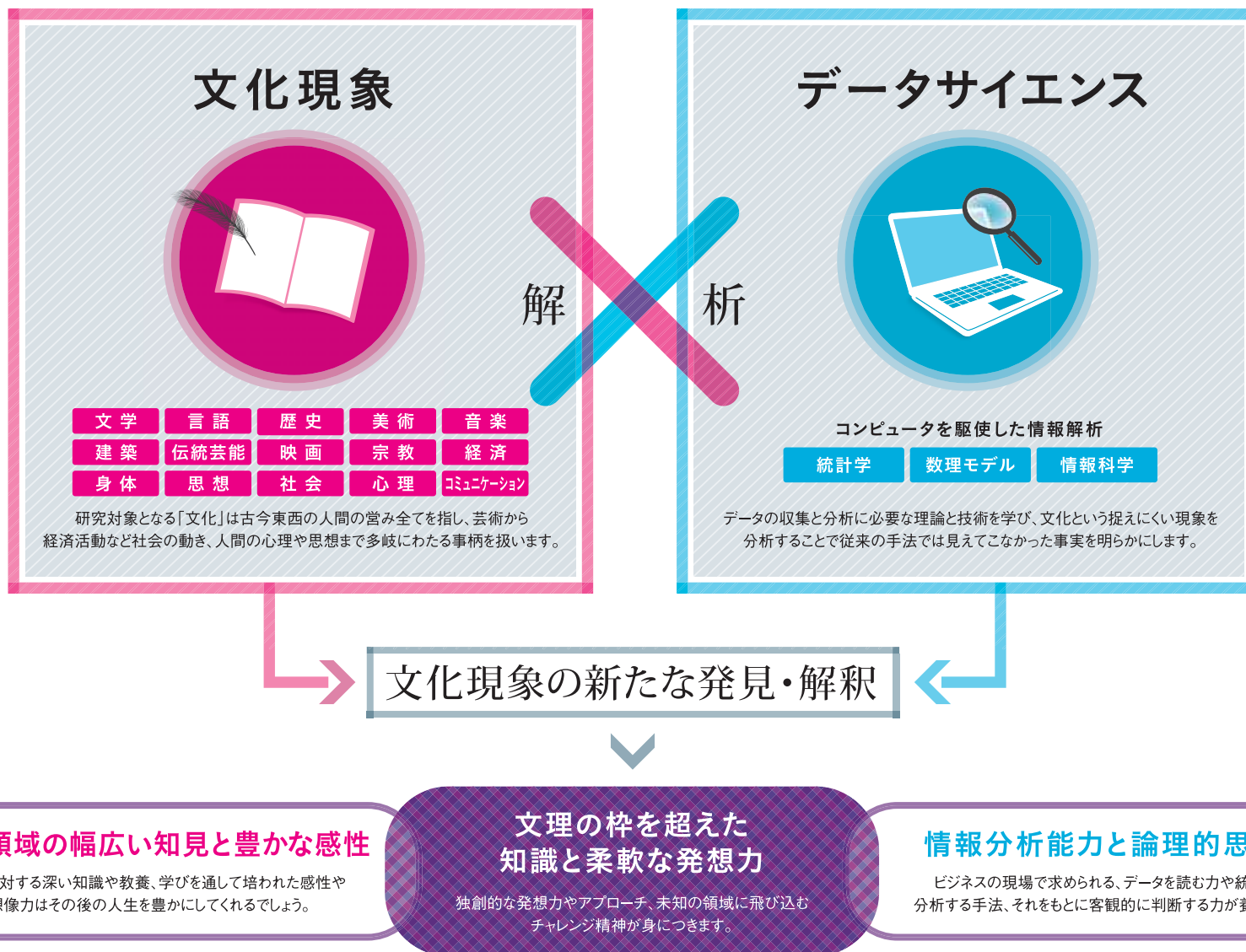
今、求められる 「文」「理」の枠を超えた力

高校時代、誰もが「文系」「理系」の選択を迫られますが、正しい判断ができるとは限らず、かえって選択肢を狭めることになりかねません。文化情報学部では、あらゆる分野を広く学んだ上で、自分が本当に興味を抱いているものに会うことができます。また、偏ることのない幅広い教養と視野は、どんな道に進むにせよ、きっと助けになってくれるでしょう。

様々な問題が複雑に絡み合う現代社会。10年後、あるいは20年後、さらに羅針盤なき時代が待ち受けています。そこで求められるのは、様々な分野を横断的に把握し、異なる分野の橋渡しを行い、答えのない問いに取り組むチャレンジ精神を持った人です。社会に対して真に貢献できる人となるため、新しい学びのステージへ踏み出してみませんか？



人間の営み全てを「文化」と捉え、データに基づき客観的に分析



「文理融合」が育む力を手に、社会へ

文系で入学した 小寺 佑実さん(4年次生)の場合

STEP 1

理系も文系も両方好き。
だから文化情報学部へ

もともと理系から文転した経緯もあって、文系分野も理系分野も両方好きだった私。分野の垣根を超えて学べる文化情報学部に進むことに迷いはありませんでした。実際に入学してみると、学びの面白さはもちろん、共に学ぶ友人たちは多種多様な考え方を持つ個性豊かな人ばかりで多くの刺激を受けました。理系が得意な人が文系の人をサポートしたり、その逆もあったり。様々な知的交流が日々生まれています。

STEP 2

認知科学の観点から、
商品パッケージについて研究

最初の2年間で文理問わず多彩な科目を受講するうちに、自分の興味・関心がどこにあるのかが見えてきました。それは、人間の知覚や思考のメカニズムについて考察する認知科学の分野。具体的には「R」という解析ソフトを用いて、人が何を考えてどう行動するかを数値化して分析しています。卒業研究では、「食品のパッケージが味にどう影響を与えるか」など、視覚と味覚の関係について探究してみたいと思います。

STEP 3

金融関係に内定！
培った力を活かしたい

認知科学の研究を進めるうちに人間そのものに関心を抱き、人と接する職種に就きたいと思うように。就職活動の結果、三井住友信託銀行に内定をいただくことができました。研究を通して培った人間の心や行動についての知識は、窓口業務でも活きるはず。また、「ジョイント・リサーチ」の共同研究で身につけた「説明する力」も役立つと思います。振り返ると、文化情報学部に進んだことが私の可能性を広げてくれたように感じます。

祝！
内定！！

その他の進路イメージ

▶ メーカーの調査・マーケティング部門

商品開発や販促活動には調査やマーケティングが不可欠です。

▶ 商社・銀行などの情報分析部門

お客様のニーズを探るため、顧客情報の分析は必須です。

▶ 大量のデータを扱う官庁・地方自治体

多種多様な統計データを適切に管理する力が求められます。

▶ 文系分野に明るいシステムエンジニア

文系出身者でもITの専門職に就くことができます。

▶ 文化にも造詣の深い数学教員

文学や歴史の教養もある数学の先生は魅力的です。

▶ 文化／データ科学領域の研究者

大学院に進学し、専門の研究者へ進む道もあります。

枠に捉われない学びが拓く、 十人十色の未来

様々な課題が山積する現代社会では、高い専門性を持つ人だけではなく、横断的な視野を持ち、異なる分野の橋渡しができる人が求められています。また、経済やマスメディアの分野など、データサイエンスに対するニーズは高まる一方。加速する情報化社会の中で、データをもとに客観的に検証、判断する能力は、今後ますます求められる力となるはずです。

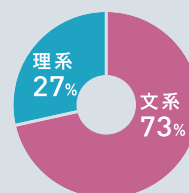
文理それぞれの知識を総動員して目の前の課題に挑む文化情報学部生は、そうした時代の要請に応えるスキルを有しています。卒業生の業種・職種は多種多様で、理系＝専門技術職、文系＝管理営業職といったありがちな図式はありません。中には文系で入学しながらシステムエンジニアや数学教師になる人もいて、自分次第で新たな可能性を切り拓くことが可能です。もちろん、どんな仕事に就いても培ったデータ分析力とチャレンジ精神はあなただけの大きな武器になるでしょう。

就職に関する情報は **P.15**



数字で見る文化情報学部

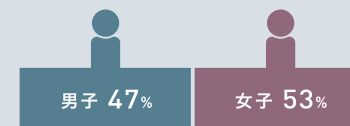
[2013年度一般選抜入試]



文系型での 入学者が多い

一般選抜入試では文系型・理系型の2種類の試験を用意していますが、毎年文系型での入学者の方が多い結果となります。入学後は、文系出身の学生と理系出身の学生が共同で探求活動を行い、互いの得意分野を教え合うという、既存の学部では経験できない学びが可能になります。

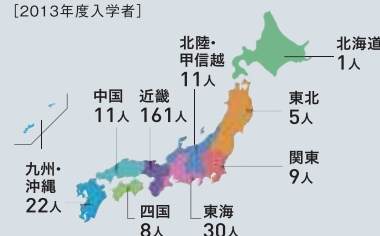
[2013年度入学者]



学部内の男女比は 約半々

例年、男女比は約半々となり、どちらかに偏ることなくバランスがとれています。これも文理融合ならではの特徴の一つです。2012年度までは男子がわずかに多かったのですが、2013年度は女子が上回りました。

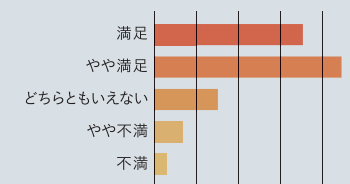
[2013年度入学者]



入学者は 全国から集合

2013年度入学者の全国分布図です(留学生は除く)。同志社大学自体の特徴でもあります。文化情報学部でも全国から入学者が集っています。いろんな地方の学生と過ごす毎日、きっと新たな発見に満ちたものになるでしょう。

パソコンの利用環境に関するアンケート



パソコン利用環境の 満足度は高い

夢告館のほか、隣接する情報メディア館・ローム記念館、京田辺キャンパスのシンボル・ラーネード記念図書館などに自習用のパソコンを多数配備しています。そのため、パソコンの利用環境については高い満足度を誇っています。

知的好奇心に答える4年間の学び

文理融合型の学部ならではのユニークな演習・科目をはじめとした、基礎から応用まで段階的に力をつけるカリキュラムを用意しています。

		1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
		第1semester	第2semester	第3semester	第4semester	第5semester	第6semester	第7semester	第8semester
必修科目		文化情報学入門	文化情報学演習		PICK UP 2	ジョイント・リサーチ		卒業研究	
			コロキウム	PICK UP 3			アドバンスト・コロキウム	PICK UP 3	PICK UP 5
選択科目	文化クラスター科目	文 化 科 目	古典文学、考古学から現代文化まで幅広く学ぶ科目群						
		言 語 科 目	多種多様なアプローチで「言語」に迫る科目群						
		人 間 行 動 科 目	人間の身体や感覚、行動について解明する科目群						
		人 間 社 会 科 目	人間と社会の関わりや社会調査法の基礎を学ぶ科目群						
		デ ー タ 分 析 科 目	専門的なデータサイエンスの技法を習得する科目群						
		情報・コンピュータ科目	コンピュータを使った情報処理能力を身につける科目群						
		基 礎 数 理 科 目	データ分析に必須となる数理科学を学ぶ科目群						
		トピックス		PICK UP 4					

カリキュラムの POINT

01 自分で「デザイン」する4年間

文理の枠に捉われない幅広い科目を設置している文化情報学部。まずは関心のある科目を自由に選んで学んだ上で研究テーマを絞り、テーマに沿って体系的に履修していきます。どの科目を履修すれば良いかわからないように、「ことばの普遍性と多様性」「人間と感性」など、いくつかのテーマに沿った履修モデルも提示しています。

02 答えのない問いに挑む、探究型の学び

社会に出ると、明確な答えのない場面はたくさんあります。そうした場面に立たされた時に問題発見・問題解決できる人を育てるため、グループ単位の探究型の講義や演習を多く設けています。誰かと議論したり、議論したことを実践したり、それを互いに教え合ったりすることで、知らず知らずのうちに多くの力が身につくはずなんです。

興味に応じて、体系的に学ぶ

科目クラスター群 [文化クラスター科目/データサイエンス科目]

「文」「理」が交差する、自由かつ多彩な学び

一人ひとりの興味に応えるため、幅広く魅力ある選択必修科目を設けています。各科目は7つの「クラスター科目群」に大別され、うち4つは文化の本質を理解するのに必要な科目群、他の3つはデータに基づいて文化を科学するために必要な知識と技術を学ぶための科目群です。

第6 セメスター	文化解析	言語と脳科学	身体認知論	行動計量学	テキストマイニング 空間データ解析	プログラミング応用 データハンドリング	決定理論
第5 セメスター	歴史文化情報論 古典文化論 文化記号論 音楽解析	自然言語の生成モデル 言語と認知 言語行動論	認知科学の方法 認知科学実習	社会変動論 人類生態と社会現象	データマイニング 心理データ解析	インターネット技術 ヒューマンコンピュータインタラクション 知的財産権 e-ラーニング	数理統計Ⅱ 時系列解析 数理モデル
第4 セメスター	文献解析 伝統音楽論 美術史学 比較文化論	言語研究の方法2 言語コミュニケーション論	表現文化論 認知システム論	メディア文化論 社会調査演習	定性的データ分析 定性的データ分析演習	翻訳解析 データベースシステム 社会とコンピュータ 数値計算	数理統計Ⅰ 現象と数理Ⅱ
第3 セメスター	歴史文化情報概説 文献講読 人間と文化	言語類型論 言語研究の方法1 言語とコーパス	感覚・知覚論 身体メディア論	社会調査法 現代社会論	定量的データ分析 定量的データ分析演習	情報理論 アルゴリズムとデータ構造 情報アクセス技術	確率・統計 現象と数理Ⅰ
第2 セメスター	歴史文化情報入門 文献学入門 ジャパノロジー概論	世界の諸言語 ことばと社会	認知科学入門 人間と感性	社会調査入門	データサイエンス基礎 データサイエンス演習	コンピュータの仕組み プログラミング基礎 情報セキュリティ	離散数学 数学基礎Ⅱ
第1 セメスター	日本文化史 文化計量学入門 現代文化概論	ことばの科学 ことばと文化	文化と認知 身体論	人間と社会	データサイエンス入門 データサイエンス入門演習	情報倫理 プログラミング入門	数学入門 論理と数理 数学基礎Ⅰ
	文化科目	言語科目	人間行動科目	人間社会科目	データ分析科目	情報・コンピュータ科目	基礎数理科目
	文化クラスター科目				データサイエンス科目		

関心を持ったものが
そのまま研究対象に
なります！



江連 文さん
(2年次生)

PICK UP

2

グループで独自のテーマに挑む

文化情報学演習／ジョイント・リサーチ

共同研究で切磋琢磨し、
ユニークな研究に挑む

1・2年次の「文化情報学演習」及び3年次の「ジョイント・リサーチ」は、グループ単位で共同研究を行う探究型の授業です。既存の学問の垣根を超えたテーマを設定して研究を進めながら、参考文献の探索方法や文献の読み方、データの収集・分析方法など学問探究の基礎を習得します。専門分野が異なる複数の教員が1クラスを受け持つのも特徴で、異なる視点からのアドバイスによって柔軟な考え方を知り、より深みのある研究を進めることが可能になります。

こうしたプロセスを通して、答えがあらかじめ用意されていない問題に果敢に取り組む姿勢を培い、4年次の卒業研究へとつなげます。また、自分と異なる考えを持つ友人たちとの共同作業は、コミュニケーション力を育み、視野を大きく広げてくれるでしょう。

MISSION

文化情報学演習1, 2

01

文化・言語・人間行動・人間社会の
基礎知識を身につける

文化・言語・人間行動・人間社会に関わる現象を対象とした基礎的な探究型演習です。文化を構成する実際の資料や作品の見方、与えられた言語資料から言語データを観察し、規則性を導き出す方法、人間の感性の働きを調べるための手法などを学び、さらには人口動態、学校教育、経済・金融、環境などの具体的な課題にも取り組みます。グループ単位での演習を通じて、先行研究の探し方、文献の読み方、レポートの書き方、発表の仕方など、基本的なリサーチ・リテラシーを身につけ、グループ内での知的コミュニケーション能力を養うことができます。



MISSION

文化情報学演習3

02

データに基づいた文化現象の
記述・推測を行うための技法を学ぶ

文化現象をデータに基づき記述したり、推測したりすることによって、今まで気づかなかった新しい知見が得られ、仮説を検証することができます。この演習では、卒業後も利用できるようにフリーの統計解析ソフトを利用して、データの入力、要約、視覚化、推測といったデータサイエンスの様々な手法を、身近なデータを用いた実習形式で学びます。そして、データ解析の結果を正しく発信ができるように、解析結果の報告書の書き方を身につけることで、データサイエンティストとしての実践的な能力を養うことができます。



MISSION

03

ジョイントリサーチ

コンピュータで古典文学を分析する

テーマ 情報科学技術を用いた日本古典文学の文字列解析

『源氏物語』などの古典文学作品は、「書写」によって現在まで伝わっています。この書写という人間の行為は、誤字や脱字はもちろん、意識的な改変までも引き起こします。例えば、物語の途中で死んでしまったお姫さまを生き返らせたいと思ったことはありませんか？さすがに『源氏物語』のような完成度の高い作品では、物語の展開が大きく変更されることはないようですが、そんな書写者の「念願」が、同じ物語でも、様々なテキストを生み出すことがあるのです。これらのテキストの比較・分類には、独自に開発した文字列解析ツールや「Splits Tree」による分析がきわめて有効です。



MISSION

05

ジョイントリサーチ

生きた言葉を理解する

テーマ 言語フィールドワーク演習

言葉は「生き物」なので、本やインターネットにある言語資料だけでは不十分。調査対象となる言語を話している地域に実際に出かけて、母語話者に直接会ってインタビューをしなければならぬことがあります。しかし、分析に必要な言語データを母語話者から引き出すためには、言語学的なテクニックが必要です。この演習では、グループで扱う言語現象を決定し、調査対象とする言語の母語話者をゲストとして招き、インタビュー調査を体験してもらいます。調査演習を通じて母語話者から言語データを引き出すテクニックを学び、データを正しく分析できるようになります。



MISSION

04

ジョイントリサーチ

私たちの行動パターンを把握する

テーマ 社会行動とゲーム理論

ゲーム理論とは、対戦において利得を最大にする戦略をどのように選択するかを考察する数学的な分析手法です。ゲームにはプレイヤーがいて、ルールがあり、勝ち負けの決まる条件があります。これは、人間が社会の中で行動する場合と似ています。例えば、私たちが人と交渉をする時、どのようにすればWin-Win（ウィン・ウィン）の関係を築くことができるでしょうか？この演習では、グループで実験的にゲームを繰り返し行い、私たちが実際にどんな行動を取っているのかを観察し、分析することで、社会の中でどのように行動が形成されていくのかを把握することができます。



MISSION

06

ジョイントリサーチ

視覚が味に与える影響を解明する

テーマ 認知のクロスモーダル性から文化を考える

文化がどのように生み出され、継承されるのかを理解する上で、身の回りにある文化現象がどのように認知されているのかを考えてみる必要があります。例えば、スーパーでオレンジジュースを購入する際、パッケージの色は購買意欲にどのような影響を与えているのでしょうか？実験協力者に様々な色のペットボトルでオレンジジュースを飲んでもらい、その味覚を評価してもらうと、たとえ同じオレンジジュースでも、ペットボトルの色によって味が違って感じられることがあります。このように、味覚評価の結果を解析すると、視覚と味覚の関係を明らかにすることができます。



PICK UP

3

先輩のプレゼンから刺激を受ける!

コロキウム/アドバンスト・コロキウム

PICK UP

4

本物に触れて、本物に学ぶ

トピックス



パワーポイントなどのソフトを使い、図表を盛り込んだスライドを作成。発表方法にも工夫を凝らします。



能や華道、京料理の専門知識から、講師の先生方の人生論まで、普段聞けない話を聞くことができる貴重な時間。

年次の垣根を超えた知的交流の場

コロキウムとは「研究会」「討論会」などを示す語で、4年次生が卒業研究の中間発表を行い、1年次生と3年次生が共に学ぶ場となっています。3年次生は司会を担当し、発表に対して質問やコメントを行うだけでなく、1年次生が質問しやすいように議論をリードする役割も担っています。上級生にとってはプレゼンテーション力向上のきっかけになるとともに、下級生は卒業研究の進め方を具体的にイメージすることができる貴重な機会に。学年を問わず同じ場で学習することは互いにとって大きな刺激になり、人間的な成長の場にもなっています。



各界の第一線で活躍する学外講師に学ぶ

一口に文化と言っても大学入学前までに接する機会や対象は限られ、知らないことも少なくないでしょう。例えば華道や茶道などの伝統文化。これらを知り実際に体験することで新たな興味が広がったり、研究を深めるきっかけになったりします。そうしたきっかけづくりの一つとして、文化情報学部では1年次からの導入科目に、学外の講師に学ぶ「トピックス」を設置しています。京都という地で有形無形の文化に触れる体験を通して、多くのことを学びとってください。

講師例

- 千 宗屋氏
(武者小路千家 家元後嗣)
- 池坊 由紀氏
(華道家元 池坊次期家元)
- 栗栖 正博氏
(たん熊北店 代表取締役社長)
- 佐野 登氏
(宝生流能楽師シテ方)
- 畑 正高氏
(香老舗 松栄堂主人)
- 山口 富蔵氏
(京菓子 末富社長)
- 堤 勇二氏
(京都・清遊の会代表)

新たな知と出会う、4年間の集大成

4年次になるとそれぞれの研究室に所属し、研究テーマを決め、1年かけて論文を作成します。選ぶテーマは流行や世相を反映したものから、先人たちの叡智や歴史の本質に迫るもの、あるいは文系的なテーマから理系的なテーマまで様々。一人ひとりが新たな「知」と出会うべく、これまでに習得した知識と技術を総動員し、既存の学問の枠を超えた独自の研究に挑みます。少人数制の中での担当教員との自由闊達な意見交換や、充実した実験施設・設備がそれぞれの研究をサポートします。

テーマ例

ジブリアニメにおける
非言語的特徴

スポーツ観戦者の意識に関する
調査研究

鎌倉時代の色彩文化

生命保険加入者の満足度分析

乳幼児の言語獲得に影響する
環境要因

フルートの音色に対する
好みを左右する要因

人口移動の数理モデル
— 都市と田舎 —

流行を科学する

商店街の来客数向上に貢献する
情報システムの開発に関する研究

日本語における読点の効果的配置
～統語構造の視点から～

学びのサポート KEYWORD



アドバイザークラス

教員一人あたり約10人の学生を担当

一人ひとりの学生の学業や学生生活、就職などをサポートするため、「アドバイザークラス」を設置。1クラス(10名程度)を一人の教員が担当し、あらゆる相談にのりアドバイスをを行います。このクラスは4年間変わらず、時には親睦のための食事会なども開催されるため、教員・学生のつながりも自ずと深まります。



数学の 補習講座

文系出身者の 苦手分野をフォロー

開講期間中 火曜日の16:40～18:10

文系出身で数学が苦手な方のために、補習講座を設置しています。データサイエンス入門等の科目の理解を深めたい学生に基礎から丁寧に教えます。



個別相談 コーナー

授業の不明点を すぐ質問できる

開講期間中 月～金曜日の13:00～20:00

数学やプログラミング、データサイエンス等の科目に関連する個別相談コーナーを設けています。上記の開室時間は専門スタッフが常駐し、授業で分からなかった箇所や理解しにくかったところ、課題などについて、マンツーマンで質問や相談に応じます。



28 文理の枠を超えた 名の教員陣

幅広い分野をカバーする個性豊かな教員たちとともに、
新たな学問のステージへ踏み出しましょう。



計算機科学
離散最適化、
アルゴリズム

深川 大助教授
情報技術の革新により社会や個人の生活は大きく変化しました。今後あるべき情報社会の姿と一緒に追求しましょう。



日本文学

福田 智子准教授
文字列解析ツールを使用して、「百人一首」や「源氏物語」といった古典文学作品の新たな魅力を探ります。



メディア情報学、
データベースシステム

波多野 賢治准教授
企業活動や人々の生活に大きな影響を与える「ビッグデータ」を管理・分析する技術の開発に取り組んでいます。



理論言語学、
統語論

星 英仁准教授
「心を映し出す鏡」であることばの形式、意味、使われ方を研究し、ことばの本質を考えていきたいと思います。



機能言語学、
知能情報学

伊藤 紀子准教授
ヒトと自然な会話ができるロボットは作れるでしょうか？コトバやコミュニケーションに興味のある方、お待ちしています。



データマイニング

金 明哲教授
数字や文字列データを科学的に分析し、その中から有用な情報や知識を見つけて出す研究を行っています。



日本美術史、
日本近世絵画史

狩野 博幸教授
北斎はなぜ赤い富士山を描いたのでしょうか？様々な情報が詰まった美術作品を解析すると新たな発見があります。



数理生物学

川崎 廣吉教授
数式と計算機シミュレーションを用いた「数理モデル」によって、文化や社会の仕組みや成り立ちを明らかにします。



応用言語学、
コミュニケーション学

北尾 謙治教授
言語を使って他人とコミュニケーションする。そのルールを知り、より効果的な方法と一緒に模索しましょう。



文化社会領域
のデータ分析

村上 征勝教授
(1)文章(2)美術作品(3)考古・歴史学データ(4)意識調査データを対象に、計量分析の手法を用いた研究を行います。



臨床社会学、
ライフストーリー研究

西倉 実季助教
社会に対して生きてくさを感じる。そうした「違和」を出発点に人間と社会の関係について考察します。



生物統計学

大森 崇准教授
測定データには、個体の違いなど様々な要因から生じる誤差が含まれます。この誤差に着目し、実用に活かします。



微分方程式、
逆問題、
金融における数学

大田 靖助教授
変化する時代の中で変わらずそこにあり続けるもの=様々な現象を記述する方程式を一緒に探究しましょう。



**認知科学、
身体メディア論**

阪田 真己准教授
身体には、性格や時には育った環境までもが表れます。身体と文化の関わりについて一緒に考えてみませんか？



**理論言語学、
日中対照研究**

沈 力教授
ことばという記号コードを解読すると、認知パターンが分かります。ことばを通じて人間の認知の世界を覗いてみませんか？



**グラフィックス意味論、
認知科学**

下嶋 篤教授
地図や路線図、グラフやチャート、ペン図やイラストなど、ありとあらゆる図解の効果を研究しています。



**通信工学、
ヴァーチャル・リアリティシステム**

杉本 裕二教授
「文化」をコンピュータで加工・表現するツールとして、従来よりも使いやすいインタフェースを作りましょう。



認知心理学

杉尾 武志准教授
人間は多くの情報を「見る」ことで得ています。この「見る」という心の働きに着目し、文化について考察します。



**日本考古学、
文化史学**

鋤柄 俊夫教授
京都を中心に、都市文化について発掘調査のデータをもとに研究しています。



比較文化論

田口 哲也教授
文学、映画、音楽など世界中の様々な文化、及びその表現媒体(メディア)について研究しています。



**時空間情報科学、
人類学**

津村 宏臣准教授
人間の行動の痕跡である文化遺産の調査・情報化と解析を通じて、ヒトの文化の本質に迫ります。



**数学、
数理科学**

浦部 治一郎教授
数学はサイエンスの言葉です。身の回りの現象を入りに、数理科学の世界と一緒に覗いてみませんか。



**統計科学、
データ科学**

宿久 洋教授
身近にある様々なデータを分析することで、新たな知識を発見したり、意思決定を行ったりできるようにします。



理論社会生態学

山村 則男教授
人間活動が引き起こす生態系の変化や生物多様性の危機などの環境問題を、理論的な観点から分析します。



**英語学、
コーパス言語学**

山内 信幸教授
ことばについての不思議やこだわりを突き詰める視点や態度さえあれば、あなたも立派な「言語学者」の卵です！



**文献学、
文化系統学**

矢野 環教授
文化事象は空間的・時間的に伝播し、変化します。その歴史の変遷を追うことで、文献の元の姿が明らかになります。



**認知科学、
音楽心理学**

安田 晶子助教
感性に響く音にはどんな特徴があるのでしょうか。データサイエンスの手法で、音と心理の関係を考えてみませんか？



**社会統計学、
計量社会学**

鄭 躍軍教授
社会の仕組みや人々の生活様式などについて、データを用いて科学的に理解するための手法を研究しています。

OB・OG Message



NEC
公共・社会・メディア営業本部
奥立 咲さん 2010年3月卒

01

人にやさしい情報社会を実現するため、学んだことを行動に移す日々

公共空間で誰もが心地よく、自分らしく過ごすにはどうしたらいいか。そんな社会をより良くするシステムや制度にもともと興味があった私。卒業研究では日本とデンマークの福祉デザインを比較し、街の景観を乱さない北欧の点字ブロックや標識についてデータをもとに論じました。そうした思いと学部で培った情報系のスキルの両方を活かせる職場として選んだのが、「人と地球にやさしい情報社会」をグループビジョンに掲げるNEC。4年目の現在、営業としてテレビ局1社を1人で担当し、東京スカイツリーの放送インフラから、放送局の新たな価値を生み出すSNS分析サービスまで、幅広いソリューションを販売しています。

お客様、そしてその向こうにいる視聴者が何を求めているのかをくみ取り、エンジニアとの架け橋になる仕事。漠然としたニーズを分かりやすい言葉や数値に置き換えて具体化し、時には定量的に判断するプロセスは、文化情報学部で学んだ手法と似ているように思います。学んだ情報系の知識はそのまま役立っていますし、それ以外にも文理問わず幅広い分野の学問に触れた経験は、人生に深みをもたらしてくれています。常に頭にあるのは、“人に寄り添うIT”を目指したいという思い。全ての人にとって使いやすく快適で、新たな価値を生み出すシステムをこれからも届けていきたいと思っています。

奥立さんがこの仕事に就くまで

エンジニアの父の影響もあり、文系にもかかわらず数学や情報系が好きで、文化情報学部へ。1・2年次はデータ系科目を中心に学び基礎力をつけた。

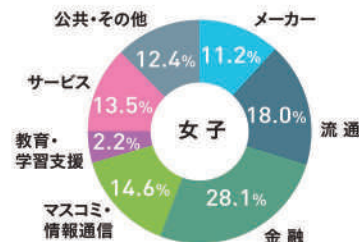
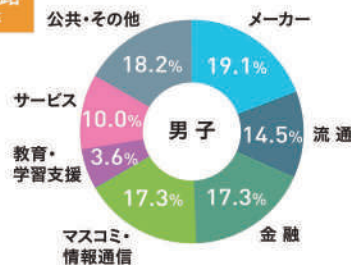
3年次の共同研究では「過去のトレンドはなぜ流行したか」を分析。「プレゼン準備に奔走したのもいい思い出です」。自身の卒業研究では福祉デザインに着目。

ITで社会をより良くしたいという思いからNECに入社。大学時代の講義を通して芸術に興味を湧き、休日は美術館に足を運ぶことも多い。

様々な
分野で活躍する
卒業生

中身の濃い4年間を過ごした学生は、文理それぞれにまたがる知識と質の高いコミュニケーション力という大きな強みを持って社会に羽ばたきます。これまで文化情報学部が輩出した卒業生は、あらゆる業種において変革の時代の戦力として期待されています。

卒業生の進路 2013年3月卒





中日新聞社
編集局写真部

浅井 慶さん 2011年3月卒

02 4年間の全てを糧に、 レンズの向こう側の選手を追う

現在は中日新聞社の写真部に所属し、中日ドラゴンズの取材を担当。チームの普段の練習に始まり、試合やキャンプなどの撮影のために全国を飛び回る日々を送っています。

もともと報道関係を目指したのは、高校時代に野球の大会で取材を受けた経験から。メディアの仕事に憧れると同時に、好きなスポーツに関わりたいという思いも芽生えました。文化情報学部は自由度が高くユニークな学部なので、どんな形にせよ将来につながる学びができると考え進学。もともと文系のため当初は数学に苦戦し、毎日補習コーナーに通いましたね。その甲斐あってか、次第に数学が面白くなってきたことには自分でも驚きました。共同研究ではラクロス試合の動画を撮影し、字幕の有無が視聴者に与える影響を測定。さらに卒業研究では「高校野球はなぜ国民的スポーツなのか」を過去の文献から統計をとって分析するなど、期待通りの勉強ができました。その一方で、スポーツ新聞の制作を手掛ける学内団体「同志社スポーツアトム編集局」にも所属し、そこでカメラに出会い現在に至っています。ずっとやりたかった仕事ができ楽しい半面、仕事だからこその難しい部分もあります。それでも、同志社大学で自由に過ごし、様々なことに挑戦した4年間は、あらゆる面で今の自分の糧になっていると感じています。

浅井さんがこの仕事に就くまで

高校時代、野球の大会で取材を受け、マスコミに興味を抱く。入学後は、好きなスポーツをテーマにデータサイエンスの手法を用いて様々な研究を行った。

学業の傍らスポーツ新聞を制作する団体に所属し、テレビ局でのアルバイトにも動んだ。就職活動の結果、地元・名古屋に本社を持つ中日新聞社に内定。

報道を経てスポーツ担当に。「文化情報学部にはユニークな人がたくさんいたので、そこで仕入れた知識が取材時の話のネタとして役立っています」。

過去の就職実績

- 株式会社三菱東京UFJ銀行
- 株式会社三井住友銀行
- 日本銀行
- 東京海上日動火災保険株式会社
- 株式会社野村総合研究所
- 株式会社日本マーケティング研究所グループ
- ソフトバンク・テクノロジー株式会社
- スミセイ情報システム株式会社
- エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社
- 株式会社電通西日本
- 株式会社竹中工務店
- 全日本空輸株式会社
- 株式会社JALスカイ
- 西日本旅客鉄道株式会社
- 山陽放送株式会社
- 吉本興業株式会社
- 日本電気株式会社
- パナソニック株式会社
- ライオン株式会社
- 株式会社資生堂
- 大塚食品株式会社
- コカ・コーラウエスト株式会社
- グンゼ株式会社
- 教員(大阪府、大阪市、京都府、横浜市)
- 公務員(愛知県、京都市、富田林市、警視庁(警察官))

取得できる免許・資格

社会系と数学・情報系の教員免許が両方取得できるのは、同志社大学では文化情報学部のみ。社会調査士などの専門的な資格も取得できます。

●教員免許

中学校教諭1種 **数学 社会**
高等学校教諭1種 **数学 情報 地理・歴史 公民**
小学校教諭1種*

※神戸親和女子大学通信教育部(男女共学)との連携によります。

●社会調査士

- 博物館学芸員
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭

Facilities 施設・設備

最新の実験設備や専用施設を完備し、文化情報学部独自の学びをサポートする環境が整っています。

人間行動や文化を解明する 最先端の実験設備

多種多様なデータを取得するため、人間の行動や心理を計測するものから、文化財や史料を解析する実験器具まで、最先端の実験装置を多数備えています。これらの機器を最大限に活用し、新たな発見を生み出すべく日々の研究に取り組んでいます。

▶ 近赤外光脳計測装置



生体に安全な近赤外光を用いて血液量の変化を測定し、脳機能を「視覚化」する装置です。

▶ レーザレンジファインダー

赤外線レーザーを照射し、対象物までの角度と距離を測定する機器。遺跡の調査などに使用します。



▶ X線分析装置



絵画や工芸品など文化財の材質分析に用いる装置。X線を照射し、成分を判定します。

文化の歩みを知る 多種多様な資料

文化を学ぶにあたっては、本物に触れることが大切です。文化情報学部では、絵画や古典籍、写本などの資料がそろっているほか、個々の教員も貴重な資料を数多く所有しているため、研究材料には事欠かない環境だと言えるでしょう。

▶ 茶道具



授業の中で茶道や華道などの伝統文化に触れる機会も設けており、茶道具も一式そろっています。

▶ 古典籍から作家の直筆原稿まで



「土佐日記」「季有朝臣 歌合」などの巻物類



古典籍や古地図も充実



大江健三郎の直筆原稿

研究を支える 文情生専用施設

学びの舞台となる「夢告館」は、文化情報学部生専用の建物です。施設内には、多数のPCを設置した情報処理教室や各種実験室、研究室などを完備。その他、学部専用の文献室やラウンジなども備え、学生の日々の研究や学習をサポートします。

▶ 実験室



視線の動きを計測する装置や近赤外光脳計測装置などを備えた実験室。複数の研究室が共同で使用します。

▶ 文献室

全学の図書館とは別に設けられている学部独自の文献室。プログラミングや統計の専門書から文学作品、歴史書など、多種多様な図書・雑誌を取りそろえており、卒業研究に欠かせない資料も多数所蔵しています。



Q&A

よくある質問

受験生の方からよくある質問をまとめました。文化情報学部イメージを膨らませてみてください。

Q 先輩たちが文化情報学部を選んだ理由は何ですか？

文理融合という学びの性質上、文化情報学部には様々な趣味や嗜好、志を持った人が在籍しています。なぜこの学部を選んだのかを在籍生に聞いてみると、「文系も理系も両方好きだったから」「とにかく面白い研究がしたかった」「文系だけど、社会に出た時に使えるスキルを身につけておきたかった」など理由は様々。高校の文理選択で迷った人や、既存の学問の枠を超えたユニークなことをしたいという人が多いようです。

こんな学生が入学しています

- 理数系科目の点数が伸びず文系コースを選択したが、科学や数学にも興味があり、ものごとを論理的に考えることが好き
- 理数系科目の点数が良かったため理系コースを選択したが、文化的なことにも興味がある
- 文系コースを希望したが、将来を考えると理系的なこと勉強しておきたい
- 数学教師を目指しているが、大学では幅広く勉強しておきたい

Q 先輩たちが思う、文化情報学部の魅力とは？

文化情報学部を選んで良かったと思う点について、在学生にヒアリングを行いました。文理融合という本学部ならではの特色を挙げる人が多く、パソコンスキルや情報処理能力の習得について言及する人も。幅広い分野の授業を受講できるのも魅力で、もともと理系の人でも芸術に興味が出て休日は美術館に通い始めたり、文系でもプログラミングが好きになったり…と、学部内ではたくさんの化学反応が生まれています。

文化情報学部を選んで良かった点

- 文系も理系も両方学んだ上で、改めて専門を選ぶ
- どの学問領域においても、常に新たな切り口でアプローチできる
- 文理融合の学部だけあって、先生も友人もユニークで魅力的
- 理系だった自分でも芸術に興味が出てきた
- PCやパワーポイントなどのソフトの使い方を一通り学べる

Q 数学が苦手なので、ついていけるか心配です

サポート制度をしっかり設けているので心配ありません。例えば、数学やプログラミング、データサイエンス科目に関する質問や相談を受け付けるコーナー(P12参照)を設置しています。平日はほぼ終日スタッフが常駐しているため、不明点があればいつでも質問に行くことができ、基礎から丁寧に教えてもらえます。

さらに、2009年度からの新カリキュラムでは、「選択科目」の自由度が増し、学生一人ひとりが自身の個性に合った授業を選ぶことができます。「データサイエンス科目」は「データ分析科目」「情報・コンピュータ科目」「基礎数理科目」の3つの科目群からなり、数学に不安がある場合は「基礎数理科目」以外の科目群から選択することも可能です。文化情報学部は、文系・理系を問わず、「文化を科学する」ことに興味を持つ学生を求めています。

Q 進路について、具体的にイメージできないのですが…

加速の一途をたどる情報化社会において、データサイエンスへの注目度は年々高まっています。コンピュータを用いて膨大な情報を処理する能力、そしてそれらのデータをもとに客観的に判断する力は、業種を問わずこれからの社会で最も期待されるスキルだと言えるでしょう。文化情報学部の研究・教育を通して身につく「文化」に対する新しい見方と情報分析力を手に、社会へ大きく羽ばたいてください。

▶▶ 例えば…

メーカーの情報分析部門の場合

ヒット商品の開発には、マーケティングや調査が欠かせません。市場や消費者にまつわるデータ分析を通して、商品コンセプトや販売戦略を策定します。

大量のデータを扱う官公庁の場合

私たちの暮らす社会に関する多種多様なデータベースを有する官公庁。情報を適切に管理し、運用する力が求められます。

進路についての詳細は **P5・P15**

Q 大学院への進学を考えています

学部での研究をさらに掘り下げ、特定の文化領域における研究者や数理、統計、情報科学分野の高度技術者・研究者を目指す人のために、2007年4月、文化情報学研究科を開設しました。当研究科では、「文化資源学コース」「言語データ科学コース」「行動データ科学コース」「データ科学基盤コース」の4コースを設置し、新たな学問分野を開拓し、国際的に活躍できる研究者や、社会で起こる諸問題に的確に対処することができる高度専門職業人の養成を目指しています。



文化情報学研究科WEBサイト

<http://www.cis.doshisha.ac.jp/gs/>

Admission | 入試情報

入試の POINT

01 文系・理系の枠に捉われない多様な入試方式

文系型・理系型のどちらでも受験可能な一般選抜入試をはじめ、多岐にわたる入試方式を用意しています。全国から集う個性豊かな仲間たちと過ごす大学生活は、実り多いものになるでしょう。

02 本質的な力を見極める推薦選抜入試

受験科目としての数学や国語の得手不得手ではなく、論理・数理的能力や表現力を問う小論文を課しています。

[入試内容] 2013年度例

一般選抜入試

学力検査で選抜する入試です。
文系型、理系型の2種類があります。

文系型	全学部日程 個別日程	外国語(200点)／国語(150点)／ 地理歴史または公民または数学(150点)
理系型	全学部日程 個別日程	外国語(200点)／理科(150点)／ 数学(200点)

センター利用入試 30名

個別学力検査を課すA方式と
センター入試結果のみで選抜する
B方式があります。※一般入試との併願可能

A方式(20名) 大学入試センター試験 + 個別学力検査(英語・数学)

.....

B方式(10名) 大学入試センター試験のみ

推薦選抜入試
(公募制) 10名

筆記試験(小論文)及び面接を実施。出願書類も含めて総合的に判断し合格者を選抜します。

小論文	論理・数理的能力を問うもの、表現力を問うもの2問
面接	勉学への意欲、社会常識、出願資格を確認

アドミッションズ・
オフィス方式による
入学者選抜(AO入試)

文化情報学部で学びたいという強い意志を持ち、かつ学力試験では計れない多様な能力、大きな可能性を秘めている学生を積極的に迎え入れる選抜方式です。

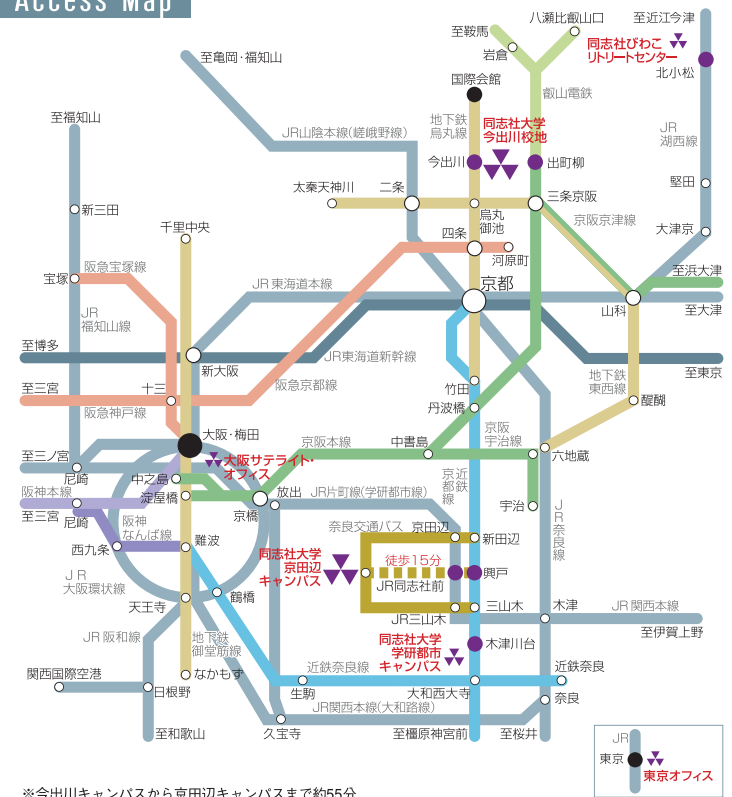
第3年次転入学・
編入学試験

大学2年次修了者、短期大学卒業者、高等専門学校卒業者、専修学校卒業者が3年次に編入学できる入学制度です。
学力試験(英語・数学)と面接によって選考を行います。

詳細は、『同志社大学入試ガイド』、本学WEBサイト
http://www.doshisha.ac.jp/admissions_undergrad/entrance_exam.html などをご参照ください。

※学生の年次及び卒業生の所属は取材時のものです。

Access Map



※今出川キャンパスから京田辺キャンパスまで約55分



同志社大学
文化情報学部

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
TEL : 0774-65-7610
FAX : 0774-65-7618
E-mail : jt-bnkjm@mail.doshisha.ac.jp
<http://www.cis.doshisha.ac.jp>